

論說

2023-1-24

通常国会が始まった。岸田文雄  
内閣は施政方針演説で、防衛力の

根本的變化、原器の達し發明や那  
新規開の延長万針などと説明した  
が、説明は不十分で説得力に欠け  
た。概説全体も、各府省が引継め  
た文書をつなぎ合わせた印象は否  
めず、政治の僵化回復に向けた熱  
意を疑わざるを得ない。

能力)保有や防衛費増額を安全保障政策の「大転換」と位置付け、政策転換の理由に「戦後堤も崩れ、(原能「原爆陰謀論」を確立)」。敵

基地攻撃能力がなぜ必要か、防衛費増額へ予算をどう積み上げるのかは説明しなかった。

政治家は、政治政策の実現に意図的・目的的に、非暴力や民族主義の範囲内で行動し、非暴力や民族主義の範囲内で行動する。非暴力や民族主義の範囲内で行動する。

「おまえがなまこ」と思はれたが、  
香煙に火をついた。

発の次世代革新への取り組みを  
原発の運転期間の延長を進める  
と表明した。安全の確保と地域の

# 政策転換の説得力欠く

## 首相施政方針

首相は演説の最後、「政治的立場を尊重する議論と検討を重ねた上」で本筋話題へ、「決断を国民の代表が成すべき」と最終的に選行に移すべきだとし、安保も原発を巡る政策転換すべきだと述べた。安保も原発を巡る政策転換が、慎重な議論と検討を重ねたところが、到底間違ひ難い難しさだ。